

広島大学文学研究科付属 内海文化研究施設

第27回 季例会・公開講演会

上卿屋敷と巖島文化

日時：平成25年6月24日（月） 13時30分～

場所：文学研究科（文学部）B104号教室

講師：国指定重要文化財 林家住宅保存会 出先 洋一 氏



【概要】宮島にある^{しょうけいやしき}上卿屋敷は、昭和53年1月に国の重要文化財に指定されました。巖島神社の創建者佐伯^{くらもと}鞍職を始祖とし、1400年の歴史を有する祠官の家です。神主代上卿として巖島神社の神事を執行するとともに、大元神社の祭主も兼ねていました。大内義隆の時代1541年、桜尾城焼失とともに上卿の館も焼け、書物も焼失したこともあり、他の上卿との関連など不明な所も多いのですが、江戸時代以降も神主代上卿職として神事を執行すると同時に、連歌・和歌の家でもあり、公家との交流もあって、上段の間も残されています。

今回、巖島文化に関わった人達との交流も含めて、上卿屋敷の概要を紹介したいと思います。